

# 県事業への参画と当施設学びのまとめ



特定医療法人財団博愛会 老健センターささおか

## 背景・現場の課題

～職員の負担とケアのバラツキが顕在化～

- ▶ 職員に腰痛有訴者が多い
- ▶ 介助負担が大きい業務が多い
- ▶ ケアが属人的で標準化できていない
- ▶ 福祉用具はあるが「使い方」が統一されていない

## 事業参加の目的

～腰痛予防とケア標準化による質向上を目指して～

- ▶ 職員の腰痛予防
- ▶ 福祉用具を活用したケアの標準化
- ▶ 利用者・職員が安楽で安全なケアができる環境づくりに向けノーリフティングケアが継続的に定着する組織風土をつくる

## 施設概要：特定医療法人財団博愛会 老健センターささおか 福岡市中央区笹丘1丁目28番25号

- ▶ 入所定員：100床
- ▶ 介護職員数：39名（男性17名 女性22名）
- ▶ 介護職員平均年齢：41歳

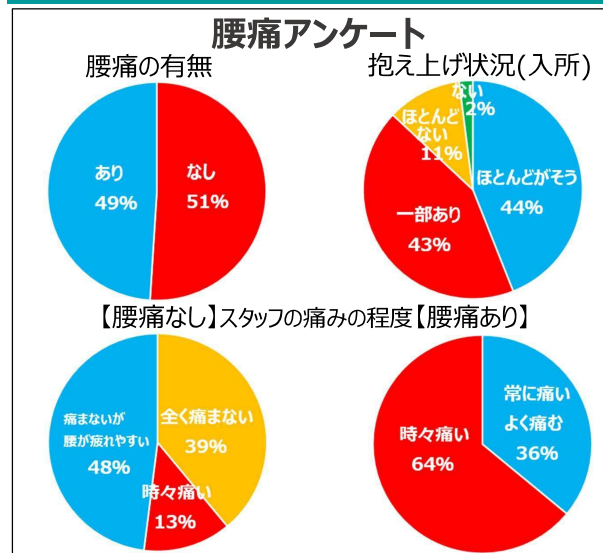


福岡市の高齢化率は22.3%  
中央区においては19.0%

笹丘校区の高齢化率：**26.9%**  
(中央区内で高齢化率が2番目に高い地域)

## 取り組み① 職員の現状把握

～データで課題を見える化する取り組み～



### 抱え上げアンケート結果で見えた負担のかかる作業

- ・ 移乗動作
- ・ 全介助者の対応
- ・ 入浴介助
- ・ トイレ関連
- ・ リハビリや動作介助

- ▶ どの場面に改善が必要かが明確になった
- ▶ 改善に優先順位をつけることができた(移乗・全介助者対応)

## 取り組み② 組織体制づくり

～委員会を中心とした推進体制構築～

### 委員会発足



### 職員への周知 (動画視聴)



### 理解度チェック (Googleフォーム)



- ▶ 委員会を発足し役割分担を行う。
- ▶ 理解度チェックをgoogleフォームで実施.満点になるまで繰り返し行うことで職員の認識を可視化。  
→**テスト結果(満点) ≠ 職員の実際の認識**  
乖離があり、委員会が期待する全職員の認識向上・定着とは言えなかった

## 取り組み③ リスクマネジメント

～ラウンドからリスクを洗い出す仕組みづくり～

### ラウンド



不良姿勢での  
介助を発見！

### 委員会



ラウンド時の内容を  
委員会メンバーで  
検討

### 改善策



全介助者の対応時  
はベッド高さ調整を  
行うことを掲示

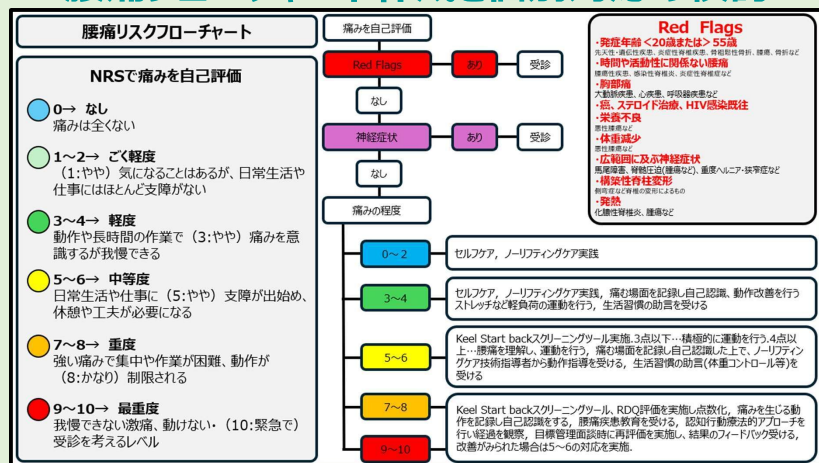
- ▶ コアメンバーのみのラウンドから始まり、委員会メンバー発信の改善案を実施。

**ラウンド→委員会→改善策の流れができた**

## 取り組み④ 職員の健康管理と対策

～腰痛リスクに応じた対応と環境改善の推進～

### 腰痛フローチャート作成と個別対応の検討



**日勤帯のみの体操実施  
から夜勤帯も実施に変更**



反対意見もありましたが  
今となっては当たり前  
になっています

## 取り組み⑤ ケア実践・技術導入

～個別例から始めるノーリフティングケアの実践～

### 共有方法(紙面や動画)



### 技術指導



- ▶ 9～10月対象者を選択し、ケア統一の共有方法の検討。  
技術指導を進めるが勤務帯が不規則なため指導時間確保に難渋。
- ▶ その結果、ケア実践が滞る.指導員を増やすべく、11～12月は指導員育成に注力。予定では技術研修受講者2名以外に8名。  
→**結果：3名にとどまる**

# 取り組み⑥ 情報共有の仕組みづくり

## ～共有物とマニュアルで組織的な連携強化～

組織図                      マニュアル                      居室環境表                      職員の声

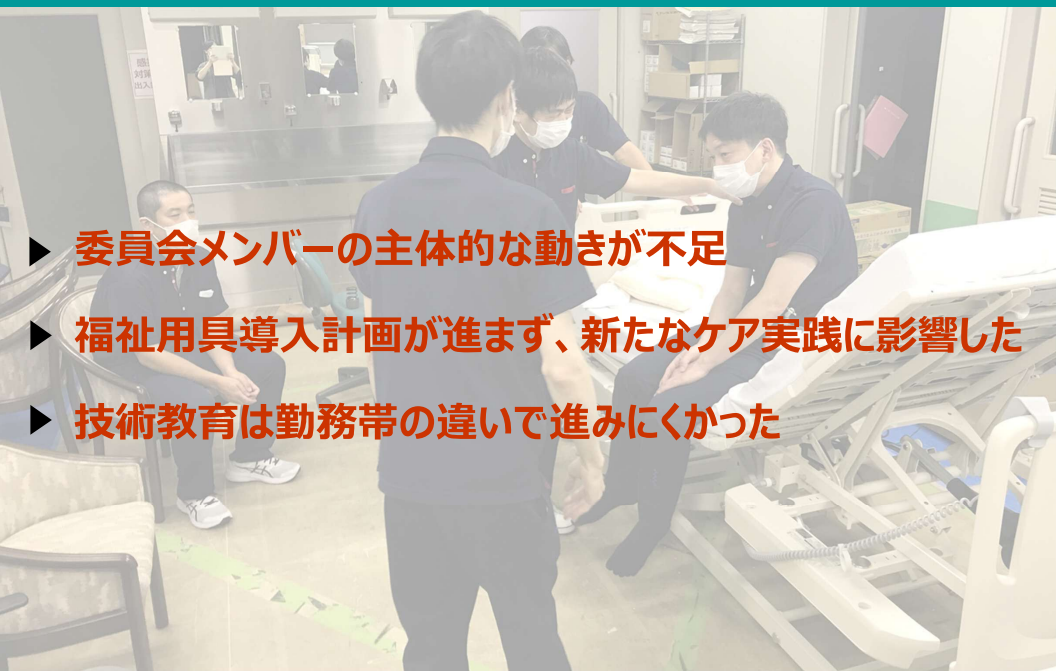
The collage includes:
 

- 組織図:** A hierarchical chart showing the roles of the director, nursing care committee, and staff.
- マニュアル:** A multi-page document detailing procedures for care and information sharing.
- 居室環境表:** A table with columns for '居室' (Room) and '環境' (Environment), listing specific care points for each room.
- 職員の声:** A poster titled '教えて! あなたの『ちょっと大変...』' (Teach me! Your 'a little bit difficult...') with a '二次元コード' (2D code) and a 'NO LIFTING' sign.

- ・ケア内容の情報共有方法の整備
- ▶ マニュアル作成に着手
- ・共有物（ポスター）を各フロアに配置

# 課題

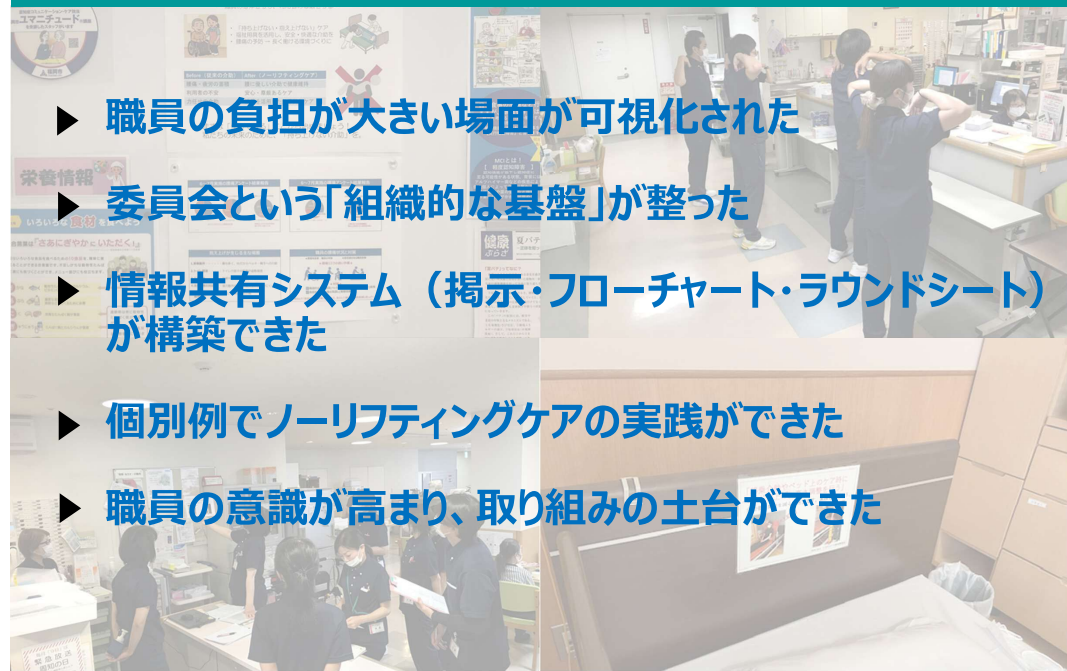
## ～活動の主体性と技術普及が今後の鍵～



- ▶ 委員会メンバーの主体的な動きが不足
- ▶ 福祉用具導入計画が進まず、新たなケア実践に影響した
- ▶ 技術教育は勤務帯の違いで進みにくかった

# 成果

## ～組織基盤の整備と意識変化が進んだ6ヶ月～



- ▶ 職員の負担が大きい場面が可視化された
- ▶ 委員会という「組織的な基盤」が整った
- ▶ 情報共有システム（掲示・フローチャート・ラウンドシート）が構築できた
- ▶ 個別例でノーリフティングケアの実践ができた
- ▶ 職員の意識が高まり、取り組みの土台ができた

# まとめと今後の方向性

## ～土台から実践へ 委員から全職員へ定着を目指して～

- ▶ 今年度の取り組みで「土台づくり」は概ね完成

## 次年度の重点課題

- 1.ノーリフティングケア目的の浸透
- 2.委員会メンバーの育成
- 3.技術教育の実施・定着（指導員8名育成）
- 4.ケア実践の拡大（全利用者）

最後に・・・

「同じ方向を向く【仲間づくり】が  
取組み推進の原動力」